

インド在住・モハンティさん

福井市  
出身

# 初の小説集を発刊

福井市出身でインドで小ホテルを経営するモハンティ三智江さん(60)が還暦を機に、三十年來念願してきた初めての小説集「涅槃ホテル」を発刊した。インド移住前に初めて書いた本格的な小説をはじめ最新作まで、インドのホテルを舞台にした恋愛小説集。福井市の県民福井ビルを訪れたモハンティさんは「インドのベンガル湾の荒い海に古里の日本海を重ねながら書いた作品もある。福井の人たちにも読んでほしい」と語った。

(西島良平)

## 自伝的恋愛小説など4編収録

収録された作品は一九八〇年、「涅槃ホテル」「天竺」中でもモハンティさんが六年の「早稲田文学」新人賞「魔の海」、そして書き下ろし「マリッジホテル」をはじめ最終選考まで残った「マリックホテル」をはじめ、インドにホテルを建てて住むきっかけになった、かつての恋を扱った「天竺魔の海」は自伝的な恋愛小説だとい



30年来の念願だった初の小説集「涅槃ホテル」を手にするモハンティ三智江さん。福井市の県民福井ビルで

う。シッタールタという仏陀を表す名を持つ奔放な青年に振り回される情熱的な日本女性、璃那にモハンティさん自身を重ねる。

「涅槃ホテル」は星雲社(東京都)を通じて販売。二百三十一頁。千二百円(税別)で、福井市の勝木書店でも扱っている。

合わせ、破滅に至る激しい恋を表現している。

インド洋の北東部に位置するベンガル湾を見渡す、かつての王宮だったホテルから始まる、激しい恋愛物語はモハンティさんの青春時代の思い出でもあるそうだ。

モハンティさんはノンフィクション三冊の出版歴があり、小説は「李耶」ジャンル「のペンネーム」で発表。二〇一〇年に「虹の魔窟のブローカー」で第七回「銀華」文学奨励賞、一三年には「インド移住まで」の配剤で第九回「文学思潮」エッセイ奨励賞、「ゆきのした秘密」で日刊県民福井主催のふくい新進文学賞(現福井文学賞)で佳作を受賞している。